

中野区教育委員会会議録

令和5年第33回定例会

令和5年10月13日

中野区教育委員会

令和5年第33回中野区教育委員会定例会

○日時

令和5年10月13日（金曜日）

開会 午前 10時00分

閉会 午前 10時34分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

参事（子ども家庭支援担当） 小田 史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長 齊藤 光司

学務課長 佐藤 貴之

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○傍聴者数

5人

○議事日程

1 協議事項

- (1) 令和6年度（2024年度）教育予算編成に向けての基本姿勢について（子ども・教育政策課）

2 報告事項

(1) 事務局報告

- ①鷺宮小学校・西中野小学校の統合に伴う保護者説明会の実施結果について（子ども・教育政策課）

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

おはようございます。定足数に達しましたので、教育委員会第33回定例会を開会いたします。

それでは議事に入ります。

本日の会議録署名委員は、伊藤委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

日程に入ります。

<協議事項>

初めに協議事項に入ります。

「令和6年度（2024年度）教育予算編成に向けての基本姿勢について」を協議いたします。

初めに事務局から説明をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

それでは「令和6年度（2024年度）教育予算編成に向けての基本姿勢について」資料に沿ってご説明をいたします。

初めに予算編成の考え方でございますが、教育予算の編成に当たりましては、さきに区長が定めた令和6年度中野区予算編成方針を踏まえ、教育委員会として自らの権限と責任において、主体的に行っていく必要がございます。

令和5年度予算におきましては、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む教育」の実現に向けて、教育の質を向上させるとともに、様々な教育課題に取り組んでいくところでございます。

令和6年度予算におきましても、子どもたち一人ひとりの個性に応じたきめ細かな教育を推進するために、ICT環境を活用した新たな学びの推進や顕著に増加している不登校児童・生徒への支援の強化など、様々な教育課題に的確に対応していく必要がございます。

また、「教育ビジョン（第4次）」や「基本計画」で掲げた重点プロジェクト、区有施設整備計画等に基づく施設整備に着実に対応していく必要があり、令和6年度教育予算の編成に当たりましては、経常経費や既存事業の見直しなどにより財源を確保していくこととし、下記のとおり基本方針に基づき、真に必要で優先度の高い事業を展開するために、より

有効な実施方法等への見直しなどにより教育行政の一層の充実を図るとしてございます。

続いて「基本方針」でございます。6項目でございます。

1 自身の可能性を伸ばし、自ら考え、学び、行動することのできる人材を育成するため、子どもたち一人ひとりの個性に応じたきめ細かな教育を推進するとともに、学習指導要領の目指す「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」のバランスのとれた教育を展開する。

2 人格形成の基礎となる幼児期における教育の充実を図るとともに、15年間の学びの継続性を確保した教育により子どもたちが「よりよく生きる力」を確実に身に付けていくための保幼小中連携教育を推進する。

3 いじめや不登校の予防や早期発見と適切な対応、児童生徒一人ひとりの状況に応じた柔軟な支援を行うための教育相談等の体制を強化する。

4 家庭、地域、学校の連携により、社会全体で子どもの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを推進する。

5 良好な教育環境を整備するため、学校再編や学校施設の改修・改築を着実に進めるとともに、新たな学びや変化する社会や地域状況に的確に対応する。

6 学校現場における職場環境の整備に努め、教員が子どもたちの教育の質の向上や自らの資質の向上に専念できる環境を整える。

次に、予算編成において重点を置く項目でございます。6項目でございます。

1 一人ひとりの幼児や児童生徒に新しい時代に必要となる資質・能力の育成、健やかな心身と安全に対する力の育成を図る。

2 子どもたちが円滑に次の学校段階に接続できるよう、これまで取り組んできた保幼小連携の取組と小中連携の取組をさらに充実させるとともに、各中学校の課題を15年間の学びの視点で解決を図るカリキュラム連携研究に取り組む。

3 区費スクールカウンセラーの配置や教育相談室における開室日を拡充し、子どもたちが学校生活に関わる問題等を相談しやすい体制や各中学校における校内教育支援センターを充実し、不登校児童生徒への支援を強化する。

また、バーチャル・ラーニング・プラットフォームを活用した不登校児童・生徒への支援を行い、継続した学びができる環境を整備する。

4、家庭、地域、学校が協働して学校運営を進めていくため、地域学校協働活動の推進を図るとともに、学校運営協議会制度の導入に向けた取組を推進する。

5 良好な教育環境を整備するため、「中野区立小中学校再編計画（第2次）」及び「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）」に基づき、小中学校の施設の改築等を行う。

また、子どもたちが安心して充実した学校生活を送れるよう、子どもたちの登下校の安全対策を強化する。

6 教員が教育活動に専念できるよう、部活動の地域移行の実施に向けた検討や部活動指導員の拡充を図る。

説明は以上でございます。

入野教育長

ただいまの説明につきまして、ご発言がありましたらお願いをいたします。

伊藤委員

ご説明ありがとうございます。一つご質問です。AIを搭載した学習クラウドということで、具体的には例えばこういった機能といますか、こういった効果というのですか、そういったものが見込めるようなタイプのものなのか、様々なものがあると思うので、もしおわかりでしたら教えていただければと思います。

指導室長

現在、iPadを小中学生全員に1人1台配布をしております。今年度AI学習ドリルというもの、試行版ではございますけれども導入をいたしまして、子どもたちの基礎基本といったようなところをしっかりと定着を図っていくために、活用を進めてきてございます。今年度の活用した中での成果や課題などを受けまして、今後もきちんと区として子どもたちが学習に向き合えるようなAIが入った学習ドリルのようなものを導入することによって、普段の授業の定着ですとか、家庭での学習といった面でも、子どもたちに活用してもらえるように考えているところでございます。

また、百科事典というようにところも書かせていただきましたけれども、こちらは小学生を対象に導入を今検討しております。インターネット上に様々な情報があふれてはおりますけれども、きちんとした根拠を持ったこの百科事典をもとにして、学習の定着につながるような、ぜひ、そういった活用をしてもらえたらと考えているところでございます。

伊藤委員

恐らくAIのほうは、そのお子さんの間違いやすいところをまた復習ができるように問題を選んでくれたりですとか、その方の学習のパターンなどをAIが学習をしてうまく学習環境を整えてくれるということであれば、大変効果的なのではないかなと思いました。

また、電子百科事典も調べるといふことに幅広く活用できるなど思っておりまして、授業観察などに参りますと、例えば、美術図工の時間などでも、電子百科事典があると簡単に実物をいろいろな角度から、あるいは拡大したり縮小したりしながら眺めて構想を練ったり、またそれを見ながら絵を描いたり、様々なことに活用できると思うので、ぜひ導入していただけたらと思いました。

もう1点、これは別のことですが、区費のスクールカウンセラーはぜひ導入をお願いしたいと思いました。一つはAIという話がありましたが、この後、活動報告でも報告したいと思えますけれども、様々な地域の自治体の取組を聞いてみますと、AIなど様々な機能のあるタブレット端末を使って、子どもたちが自分の心の状態、意欲や抑うつですとか、気分が少し落ち込んでいるとか、今日は気分がいいとか、そういったことを例えばモニターしたり、様々な自分自身を振り返るツールとして使っていて、そのことから、実際の学校の中での様々な問題を早期に発見したり、その早期に発見されたことを実際の支援につなげるところでスクールカウンセラーが非常に重要で、AIだけでは駄目で、AIから実際の先生方の支援、学校での支援に橋渡しするところにスクールカウンセラーが必ず必要であるということも言われ始めております。

ですので、予防ということを考えてときにも、スクールカウンセラーが非常に重要であることが生徒指導提要などでも指摘される時代になりましたので、この部分は必須の部分かなと思いましたが、バーチャル・ラーニング・プラットフォームなどにおいても、そうした取組から今度は実際のバーチャルでない世界への橋渡しのところで、またスクールカウンセラーなど心理職が非常に必要になってくると思いますので、そういったこれまでの相談という狭い活用ではなく、これからの活用も見越して、ぜひ配置をお願いできたらと思いました。

以上です。

岡本委員

今、伊藤委員が質問されたAI登載学習クラウドについてなのですが、今後活用されていくに当たって、実際にどう活用されるかをしていくのか、こういったこともぜひ共有をいただければと思います。先生方にただ「用意したから使って」というだけでは、実際なかなか使えるようにはなりませんし、もしかすると先生方の負担にすらなってしまうかぬないと思います。もちろん研修等は実施されると思うのですが、それを使うことによって授業の質も高まりますし、もっと言うところ「先生方の負担軽減にもつながります

よ」といったことを、ちゃんとゴールを踏まえた上で先生方が使えるような支援体制が必要だと思いました。そして、実際にどのような使われ方をされたのか、あるいはあまり使われなかったのか、そういったこともぜひフィードバックをいただいた上で、来年度に向けての改善も常に考えておく必要があるのかなと思いました。これは意見です。

電子百科事典についてお伺いしたいのですが、先ほどもご説明いただいたのですけれども、小学生が学習において使っていくということだったのですけれども、その場合はもう電子百科事典だけにとどめて、例えばインターネットの接続はしないのかどうか、このあたりを教えてくださいませんか。

指導室長

百科事典をメインに使うという形にはなるとは思いますけれども、学習のそれぞれの単元等によっては、インターネットも併せて活用する場面というのは出てくるとは思います。子どもたちにとって、インターネットというのはもう非常に身近なものになっておりますので、インターネットの活用の仕方というのをも併せて、日ごろから情報モラルという形でも、先生方も指導しております。正しく情報を取り扱える、そういう力も必要になってくると考えておりますので、百科事典のみということではなくて、併用しつつ、正しい情報にきちんと子どもたちがたどり着けるような指導は併せて行っていくように、学校にも指導してまいりたいと考えております。

村杉委員

ご説明ありがとうございました。電子百科事典について確認をさせていただきたいのですが、これは学校の授業のときでも、あとは家庭でも、例えば校外学習に行ったときでも、どんなときでも使用できるものなのでしょうか。

指導室長

W i - F i の環境等が必要になってくるものではあると思うのですが、普段の授業の中でも、子どもたちが学んでいる中で疑問に思ったようなことをその場で子どもたち自身が調べて、さらに考えを広げるですとか、深めていくというようなことにぜひ活用してもらいたいとも思っておりますし、家庭で、1人で勉強しているときというのはなかなか誰かにパッと聞くということができないようなケースもあると思いますので、そういうときもこの百科事典をもとにしていろいろヒントをもらいながら、自分で考えを進めていけるような、そんな活用をしてもらいたいと思っております。

社会科見学等でいろんな施設等に行ったときも、上手に活用できるようなケースもある

かとは思いますが、ぜひそのあたりは先生方のほうでもいろいろアイデアを出していただいて、子どもたちの興味関心がどんどん広がっていくような活用をしてもらえたらと考えています。

平本委員

ご説明ありがとうございました。スクールカウンセラーの点については、先ほど伊藤委員からもご指摘がありましたとおり、不登校児童・生徒への支援という意味だけではなく、そうしたお子さんを抱えた保護者への支援という意味でも非常に重要な部分かと思っておりますので、ぜひ力を入れていただきたいなと思っております。

これまではスクールカウンセラーというのは、何かことが大きくなってから相談する方だというような、ハードルが高い部分もあったかと思いますが、予防という観点でも気軽に相談をできるような存在にしていく必要があると思えますし、そうしますと、やはりどうしてもマンパワーが必要になるかと思っておりますので、ぜひこの点は重点を置いていただきたいという意見でございます。

よろしく願いいたします。

岡本委員

もう一つお伺いしたいのですが、重点を置く項目の二つ目で保幼小連携のところなのですが、「各中学校の課題を15年間の学びの視点で解決を図るカリキュラム連携研究に取り組む」。こちらすごく興味深いなと思ったのですが、何かお話しいただけることの範囲で、ご説明をいただいてもよいでしょうか。

指導室長

中学校区ごとにこの保幼小中連携でいろいろな取組を進めております。課題というような書き方をさせていただきましたけれども、学力の面、それから体力や健康の面、そして心の面、また特別な支援を要する子どもたちをどう育成していくかというようなところは、やはり幼児期からの継続した保護者との連携などが必要になってくると考えておりますので、それぞれの中学校区ごとの取り組む課題を共通のテーマとして持って、これまでもいろいろ取組を進めてきたところでございます。

中野区は特に幼稚園・保育園が公立私立を問わず、これまで50年以上にわたって研究をずっと続けてきているというような、そういう地域でもございますので、つい先日も合同研究ということで、小学校の体育を幼稚園・保育園の先生方が参観されるという機会がございました。参加された先生方からも非常に学びになったというところでご意見をいた

だきまして、小学校1年生が自分たちでチームの中で作戦を立てて、「今日はこういう作戦でいこう」というようなところで取り組んで、またそれをお互いに振り返ったりですとか、どの友達がこんな頑張りをしていたという相互評価ですとか、非常に充実した活動を小学校の先生が授業の中で見せてくださいます、参加された講師の先生なども、その方も幼児教育専門の方で小学校の授業を見る機会というのがそれほど多くない先生でいらっしゃるものですから、非常に勉強になりましたなんていうお褒めの言葉をいただけたというような機会もございました。

今後子どもたち、幼児期、それから小学校・中学校の義務教育段階で、それぞれの子どもたち一人ひとりの学びや成長をしっかりと支えていって、その後さらなる次の段階にいったときも活躍できるような子どもたちを育てていけたらと考えています。

入野教育長

地域によっては自己有用感を育てるということで、保育園時代からどのように取り組んでいくか、中学校、かなり課題に感じている部分もあるようですし、小学校は小学校なりに同じように課題に思っているようですので、保幼小中で話し合っ、話し合いを持ってお互いにどうしていこうかということで、結論が出ないにしても、通して考えていくという土壌は出てきているのかなと私も思っております。そんな報告も受けております。

ほかにございますでしょうか。

岡本委員

ご説明ありがとうございました。まとまらずにお話ししてしまうかもしれないのですが、今の教育長のお話を伺って安心したのですけれども、もしかすると中学校が考えている課題があって、それを解決するために、小学校、保育園、幼稚園でこうしましょうということになってはちょっと困るなど思ったので、そうではなくて、お互いに学び合っ子どもたちがどう成長していきたい、成長を支援していくかという観点から研究を進めていただければと思います。

以上です。

伊藤委員

今の点ですけれども、やはりほかの地区でも、例えば中学校になって自分で自分のスケジュール管理をしないと学習や部活動がうまくいかないということになる。そこでつまづく子が多いということがわかったときに、地域の小学校でも少し自分で計画を立てるということを小さいときから計画的にやってみようとか、子どもにとっての成長課題を見越し

て、その地域の子どもに強い部分、弱い部分があると思うので、それを、計画的に力をつけていくということは、子どもにとって豊かな人生につながるのではないかなと感じています。

それともう一つは、最後に部活動の地域移行などのことも書かれておりますが、全てはバラバラのことではなくて、心の面から、学習面から、健康の面から、全ては子どもが健康で楽しく学校生活を送れて、そこで成長できるということのためだと思うので、バラバラなこととしてではなく、トータルでどういう学校づくりをしていくのかという観点から、またさらに必要な予算を獲得できるようにしていただけるとありがたいなと思いました。

以上です。

入野教育長

ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それではまとめたいと思います。特にこの案を修正するというご意見はなかったようでございますので、事務局から出された案のとおり、次回議案として提出するつもりでございますので、そのように準備をするよう指示したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

それでは事務局には次回議案を提出するための準備をするようお願いをいたします。

本協議を終了いたします。

<教育長及び委員活動報告>

入野教育長

次に報告事項に入ります。

教育長及び委員活動報告について、事務局から報告する事項は特にございませんが、各委員から活動報告がございましたらお願いいたします。

伊藤委員

日本心理臨床学会のオンライン大会が昨日で終了いたしました。全体的に感じたことなのですけれども、先ほども申しましたように、様々な自治体で、自治体のレベルでクラウドとかタブレット端末を各自が持っているということを生かして、自分の心の状態や学習状態を子どもが見直しながら、そこからでも教師やスクールカウンセラーがより早く何か手

助けできるポイントがあるということに気づいて問題を予防していく、問題が大きくなってしまふ、いたずらに大きくなることを予防していくというような、そういう段階に、具体的にいろいろな地区でなっているということを感じたしまして、そういう意味では中野区もきちっとこれまでの考え方とはさらに違ったことを考えられる状態だということを感じて、様々なことを考えていく必要があるなということを感じました。

それとまた予防ということをお申しましたけれども、いたずらにと申したとおり、子どもにとっては壁を乗り越えることも必要ですし、様々なストレスもある程度必要な部分があると思うので、そういったことも含めて、子どもたちが元気に育てるような学校づくりというのをもう1回現代的に考え直すというか、現代のインフラの中で考えていくということをおちらも躊躇なくというか、あるいは怠けずにやっていく必要があるなと思いました。

以上です。

村杉委員

学校医として昨日就学時健診がありまして、お手伝いに行っていました。

60名程度健診してきましたが、予防接種の接種状況を確認させていただいたり、来年の入学までに済ませていただきたいもののチェックをさせていただいたりしました。

あとは、数名療育に通っていらっしゃるという方もいらっしゃいましたが、そのような子どもたちも最低限診察時の受け答えや、「マスクを下にずらして大きなお口を開けて『ああ』って言うてみて」というような、そういう受け答えにも比較的きちんと皆さんできていらっしゃいました。元気に体調を整えて、来年の入学を迎えていただきたいと思います。

以上です。

入野教育長

ほかにございますか。よろしいですか。

ご発言がないようですので委員活動報告を終了いたします。

<事務局報告>

入野教育長

続いて、事務局報告に移ります。

事務局報告「鷲宮小学校・西中野小学校の統合に伴う保護者説明会の実施結果について」の報告をお願いいたします。

学校再編・地域連携担当課長

それでは鷺宮小学校・西中野小学校の統合に伴う保護者説明会の実施結果について報告をいたします。

まず最初に、開催日時、会場、参加人数でございますけれども、9月9日に実施をいたしました。西中野小学校では8時40分ごろから9時50分まで行いまして、215名の参加がございました。鷺宮小学校におきましては、10時45分から11時25分まで行いまして、220名の参加がありました。

この中で寄せられました主な意見、それから区の回答でございますけれども、例えば1番のところで「2号踏切で何分ぐらい待機するのか」、このようなご質問がありまして、多いときは10分程度待つこともあると思われると回答しております。

また、「2号踏切だけではなく、1号踏切を横断して通学してよいか」、このようなご質問もございました。通学路につきましては、これまでの通学路をできるだけ生かすよう学校で考えており、中杉通り東側の鷺宮小学校の児童は現在横断している1号踏切を横断してもらう予定、中杉通り西側の西中野小学校の児童につきましては、原則2号踏切を使用させていただきたいと考えていると回答いたしました。

また3番でございますけれども、「2号踏切だけでなく、3号踏切も通学路として警備員を配置するなど代替案も考えるべきではないか」、このようなご意見がありました。3号踏切につきましては自動車が通るため、危険が多いと判断いたしまして、安全第一ということで2号踏切としたと、ご指摘も含めて検討したいと回答いたしました。

また6番でございますけれども、「早朝登校の対応について、どれくらいの児童が早朝登校することを想定し、校庭で待機する際の警備員は何時から配置されるのか、校舎には入れないのか」このようなご質問がありましたけれども、詳細につきましては調整中ですので回答しているところでございます。

また8番でございますけれども、「学校で、大人数で踏切を渡る練習はしないのか」このようなご質問もございまして、「学校で訓練を行う予定で、両校で交流事業を行っているので、お互い行き来しながら踏切を横断する練習をする」と回答しております。

それから次のページになりますけれども、10番、「警察や地域への子どもの安全に対する協力要請などはどのように具体的に行うのか」。これにつきましては、今後、警察・地域への具体的な要請を行っていききたいと回答してございます。

それから(2)、学校指定品につきましても当日は説明をいたしました。その中で2番でございますけれども、「体育着は何枚支給されるのか。これまでの体育着も使用しているの

か」このような質問もございました。学校指定品の支給は1セットであります。理由等があればこれまでのものも着用いただいても構わない。このように回答したところでございます。また(3)、学童クラブにつきましては、「キッズ・プラザに来る自転車の駐輪場について配慮してもらいたい」、このような意見があったところでございます。

説明は以上でございます。

入野教育長

ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお願いをいたします。

伊藤委員

感想というか意見ですけれども、保護者の方のご心配は大きいと思いますし、実際子どもたちが雨の日などに急いで踏切を渡るということは大変危険性も伴うと思っています。そういった中でオンラインや在宅勤務ということも増えた今の社会において、子どもたちがある意味で、そういう交通事情の犠牲になるということはどう考えたらいいのかなといつも思うのですけれども、そういう意味でも地域の方はもとより、踏切を通る鉄道会社ですとか、様々な方にご理解をいただいて、少しずつご協力をいただくという方向性も必要だなということを改めて感じました。

それとともに安全教育ということはとても大事だと思いますので、登校ということに限らず、踏切をきちんと渡るといことは身につけておく必要のあることだと思いますので、ぜひ学校での練習というのも繰り返し行ったり、子どもたちの意識を高めるような安全教育をぜひ行っていただきたいなと思いました。

以上です。

岡本委員

大変多くの方にご参加いただいて、ご質問もたくさんいただいて、伊藤委員がおっしゃったみたいに、保護者の関心、もっと言うと心配は非常に大きいものだということが改めてよくわかりました。もしかすると保護者の間でも意見の相違はあるかもしれないなとも思うのですけれども、非常に難しい面もあるかもしれませんが、さっき伊藤委員が練習ということもおっしゃったのですけれども、例えば今後一度試してみるとか、そういったことのご予定はありますか。

学校再編・地域連携担当課長

学校のほうで今後実際の訓練、練習というものを予定はしているところになります。

村杉委員

以前、小学校2年生の児童が下校途中で踏切の事故で亡くなられたということがあったようで、そのときのことを今日見てきたのですが、遮断機が下りている踏切にスーッと入って行ってしまったということなのです。そのときに発言していらっしゃる交通事故の鑑定人という方が、やはり低学年の子どもたちのほうが、高学年の子どもたちに比べて危険性を認識する力が弱いということで、例えば興味を引かれたことにスーッと夢中になって入ってしまうということで、周りのことになかなか気づきにくいということでした。

やはり特に低学年の下校に関してはちょっと配慮が必要だなと思いました。

以上です。

平本委員

説明会には多数の保護者をご参加いただいたようで、様々なご意見をいただいてよかったなと思います。

今後、保護者の心配ごととしては、不安な面を早めに解消したいと。特に実際どういう状況になるかというのも早めに体験した上で、それに対する手立てを家族で考えたいという部分が多いのかなと思っています。私自身も子どもが低学年のときは、こういう状況なのであればしばらくはついていったほうがいいのか、あるいは、保護者の間で、当番制で班を決めて誰かがつき添うといった、そういう調整をするということも実際ございましたので、特に今回についてはできるだけ早く練習というか、訓練を行う機会を設けて、ご家庭でもお子さんたちとよくお話をしたり、保護者の間で協力関係を築ける時間を長めに設けていただけるとよいのではないかなと思います。

以上です。

入野教育長

ご意見いただきましたことも併せて学校と協議をしていきたいと思っておりますし、低学年は学童クラブに行くということもございますので、学童クラブは学童クラブのほうできちっと対応してくださるよう、4月1日からですので、考えていただいていると聞いております。

子どもたちの安全が第一でございますので、学校、学童、そして私たちが一緒になって、しっかりと守っていけるように、今後もお話し合いは続いていくかと思っておりますので、やっていきたいと思っております。練習については学校と相談をして、どの時期がいいかについては再度考えてみたいと思っております。よろしいでしょうか。

それでは本報告は終了いたします。

それでは最後に事務局から次回の開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会でございますけれども、10月20日午前10時から区役所5階の教育委員会室で開催する予定でございます。

以上でございます。

入野教育長

それでは、以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これもちまして、教育委員会第33回定例会を閉じます。ありがとうございました。

午前10時34分閉会